

第 2 回 常滑の艇庫移転会議

日時：平成10年5月15日（金） pm3:00～5:00

場所：名古屋大学9号館 3階大会議室

〈出席者〉

名古屋大学ヨット部長（工学研究科教授）	林 良嗣
名古屋大学学務課	加藤 貞夫
名古屋大学ヨット部OB	古川 裕之
名古屋大学ヨット部OB	藪谷 智規
名古屋学院大学学生課	山本 孝幸
名古屋学院大学ヨット部長	小井川 広志
名古屋学院大学ヨット部主将	増田 佳嗣
名城大学ヨット部監督	長尾 好泰
名城大学ヨット部主将	西川 正孝
南山大学ヨット部主将	増田 江美子
レーザー知多フリート	高嶋 信彦
中部学生ヨット連盟会長	市川 隆
愛知県ヨット連盟	中野 昌男
（財）名古屋YMCA	山口 栄三
東海銀行	戸田 健一
	（敬称略）

1、前回会議（5月1日）の概要（林名大ヨット部長）

- ・企業、同好会などの大半は、鬼崎を拠点としているため、現在のところ蒲郡への移転の意志はない。しかし、2団体ほどは、蒲郡へ移った方がメリットがある模様。
- ・大学側は、5大学（愛知工業大学、名古屋学院大学、南山大学、名城大学、名古屋大学）の部員の代表者は、移転を熟望している。
- ・大学関係者は、学生の意見を尊重する、とのこと。

2、今回議事録

名城大学 監督 長尾さん：

- ・現在までは、常滑市の指導で動いていたが、他の地への移転も考えている。学生の意向を尊重したい。名城大学当局の意向は聞いていない。

東海銀行：

- ・現在ディンギーは鬼崎、クルーザーは津で活動している。平成13年いっぱいまで鬼崎で活動するが、新艇庫を建てる予定はない。ラグナックスアイランドが完成すれば、そちらに移るかもしれない。それに伴い、海陽ヨットハーバーでディンギー、ラグナックスアイランドでクルーザーが活動できれば、ヨット部員はうれしいのではないだろうか。

YMCA 山口さん：

- ・だいたい前回の議事録の通りである。蒲郡の話が具体化し、移れるのであれば考えてもよい。

ブラザー工業 竹内さん：

- ・クルーザー、ディンギーで活動中。クルーザーの活動は活発 だが、ディンギーの活動は低稼働中なので、予定地に申し込みはしてあるが、予算的にめどがたっていない。

注) 現在、常滑市に移転地を申請しているのは以下の団体である。

愛知学院大学、愛知工業大学、南山大学、名古屋大学、名城大学、名古屋工業大学、三菱、ブラザー工業、常滑市体協、レーザー知多フリース、東亜合成、豊田自動織機、INAX、YMCA

林名大ヨット部長：今会議までに話し合いをもったのは、以下の方々である。

愛知県土木部長

伊佐治氏

土木部港湾課長

山口氏（名古屋工業大学ヨット部OB）

同 港湾課

寺島主幹 以下3名

●県との話し合いで得た内容は以下の通りである●

- ・常滑市建設部にも話はしてある。蒲郡に関しては、各大学のニーズがあり、又問題もあるのでそれらをまとめて整理し、解決する方法を考えていきたい。
- ・船の航行について現時点でわかっていること
 - (1)西4区、5区（鬼崎の北方）にコンテナヤードを建設中で、今後コンテナ船が増加する見込みである。
 - (2)土運船は、空港予定地の南側から来る。（未確定）
 - (3)北側からの海上アクセス（資材等の運搬）がある場合、空港予定地の南北どちらを通るか未定である。また名古屋港から来ることも考えられる。
 - (4)完成後は、空港四方500M（南北600M）が立入禁止区域となる。また、空港へのアクセス手段として高速艇（時速100キロ）の運航が予定されている。

学生：

- ・「やぐら」が空港の中心とすれば、そこから南北に約2・5キロが滑走路となるため、練習海域は大きな制約をうける可能性がある。「やぐら」は鬼崎からはっきりと見える位置にあり、風の強い練習ではすぐにその付近まできてしまう。また、冬期の練習海域は海苔網が本線航路まで張り巡らされるため航路内での練習を余儀なくされる。空港建設による船の行き来の増加および練習海域の縮小により、従来よりも危険性は増すものと考えられる。

中部学連会長市川氏：

- ・ディンギーヨットは、ヘリコプターのホバリングでさえも沈するため飛行機の離着陸における乱気流・爆音の影響も考慮しなければならない。

常滑漁協理事は、空港完成後も海苔網の漁業権は放棄しない意向であるため、今後も海苔網による練習海域の制約は避けられない。

以上が常滑の現状、および以後考えられる問題点である。

中野昌男名大OB：以下のようなことを聞いている。

- ・海陽ヨットハーバーの使用目的は、5年間変更できない。
- ・スポーツ財団から港湾課に所轄が移った。

林名大ヨット部長：県は次のように言っている。

- ・アメリカズ杯、ラグナックスアイランドなどの開発に準じて進行していく。
- ・以上の問題があるため、しばらく常滑で活動してもらい、条例の変更等の準備が整いしだい、協力したいとのことである。
- ・移転候補地は、海陽ヨットハーバー内であるか、ラグナックスアイランドまたは海浜公園予定地に移転する可能性もあるので、場所は確定できない。

※話し合いの結果、愛知県、蒲郡市、常滑市に対し要望書を提出し、3者に返答を1ヵ月程度でお願いすることとなった。要望書の主な内容は以下の通りである。

- ・平成13年の立ち退き期限の先延ばし
- ・立ち退き料の支払い要求
- ・借地料金の2重払いの不合理の撤回要求、又は値下げ要求
- ・鬼崎の現状と今後の状況
- ・蒲郡市への移転場所、時期

※以上のような要望書を提出するにあたり、現在鬼崎に立地する各団体の連名をお願いすることとなった。後日、要望書の文案とともにこの件の諾否を尋ねることとする。

次回会議予定

日時：6月2日（火） pm 3：00～5：00

場所：名古屋大学工学部9号館 3階大会議室

以上

書記：名古屋学院大ヨット部 主将 増田 佳嗣
名城大ヨット部 主将 西川 正孝
南山大ヨット部 主将 増田 江美子

(林 良嗣 確認)